

# AOSSG 活動報告

ASBJ 常勤委員 せきぐち ともかず  
**関口 智和**

## 1. はじめに

アジア・オセアニア地域の会計基準設定主体においては、2009年11月にアジア・オセアニア会計基準設定主体グループ(AOSSG)が組成されており、企業会計基準委員会(ASBJ)も2010年9月から2011年11月まで第2代目議長を務める等、その活動に積極的に参画している。2013年11月に開催された第5回年次総会より、香港(HKICPA<sup>1</sup>)が議長、韓国(KASB)が副議長(任期:2年間)となって活動を行っているが、本稿では、主に2014年5月から7月における活動について、概要をご紹介させていただく。

## 2. IASB に対するコメントレターの提出

AOSSGでは、プロジェクトごとに作業グループ(WG)が組成され、国際会計基準審議会(IASB)に対する意見発信等がされている。

2014年5月から7月において、IASBより公表された次の協議文書に対するコメントレター

が提出された。

- IFRS 第3号「企業結合」等の適用後レビューに関する情報要請(2014年7月22日提出)
- 公開草案「開示に関する取組み(IAS第1号の修正提案)」(2014年7月28日提出)

### (1) IFRS 第3号等の適用後レビューに関する情報要請

IASBは、IFRS第3号等について適用後レビューを行っており、情報要請「適用後レビュー:IFRS第3号『企業結合』」を、2014年1月30日に公表している。AOSSGにおいては、ASBJが議長役を務めている取得及び報告企業問題WGにおいて、本件に関するコメントの取り纏めが行われ、2014年7月にコメントレターが提出された。

AOSSGからのコメントレターでは、AOSSGメンバーは、市場関係者からIFRS第3号等が有用な財務情報に寄与しているとしつつも、主に次の点について市場関係者から特に懸念が示された旨を記載している。

- のれん及び耐用年数の確定できない無形資産の非償却から得られる情報が十分に有用とい

1 本稿において、会計基準設定主体の表記は、ASBJ(当委員会)を除き、「国若しくは地域名(会計基準設定主体の略称)」によって記載するか、又は、国若しくは地域名のみを記載している。

えるか、年次の減損テストに関連する主観性やコストが十分に正当化し得るものか

- 財政状態計算書において区分して表示されている無形資産の公正価値の情報は、主観性が高いことを勘案しても、なお十分に有用といえるか
- プロフォーマ財務情報について要求される開示は有用といえるか

## (2) 公開草案「開示に関する取組み (IAS 第1号の修正提案)」

IASBは、2014年3月に、開示に関する取組みプロジェクトの一環として、IAS第1号「財務諸表の表示」の限定的修正に関する公開草案を公表した。本公開草案は、IAS第1号における表示及び開示の要求事項の一部について、企業が同基準を適用する際に適切な判断を行使できるようにすることを意図した修正と持分法で会計処理される投資から生じるその他の包括利益(OCI)項目の表示のあり方に関する修正から構成されている。

AOSSGからは、メンバーの見解を踏まえ、2014年7月にコメントレーターが提出されている。AOSSGからのコメントレーターでは、本公開草案における提案を概ね支持するとしつつも、主に次の点について懸念を表示している。

- 結論の背景に記載されている見解の一部が、開示の取組みの主な目的と十分に整合していないこと
- 結論の背景において、IASBが財務諸表の比較可能性よりも財務諸表及び財務諸表注記の表示のあり方を判断する上で企業に柔軟性を与えることに重きを置いた理由が十分に示されていないこと
- IAS第1号における「表示」や「開示」とい

う用語が、IFRSの基準全体においてより整合的に使用されるべきであること

また、コメントレーターでは、上記に加え、次の点についても、コメントしている。

- IAS第1号の第31項の修正提案について、財務諸表利用者のニーズを考慮して個別に開示要求がない場合でも追加的な開示を検討することを要求することは、財務諸表作成者の実務において困難である可能性があること
- IAS第1号の第54項の修正提案について、過度に詳細に分解される場合、財務諸表利用者の理解可能性を低下させる可能性があるため、本公開草案において提案されている文言について修正を検討すべきこと

## 3. ASAF 会議への対応

IFRS財団がIASBの諮問機関として設置した会計基準アドバイザー・フォーラム(ASAF)会議には、アジア・オセアニア地域から、ASBJ、中国、オーストラリアに加えて、AOSSGから代表者(AOSSG議長)が出席している。このため、AOSSGでは、代表者がAOSSGメンバーの見解を適切に発言できるようにするために、ASAFワーキング・パーティー<sup>2</sup>を組成した上で、事前に意見集約を行うとともに、事後的にもAOSSGメンバーに対するフィードバックを行っている。

2014年6月2日から3日にかけて開催されたASAF会議では、共通支配下の企業結合、持分法、保険契約、マクロヘッジ、概念フレームワーク、開示に関する取組みが議題となっていたことから、関連する各WGリーダー<sup>3</sup>が中心となってWGメンバーの意見を集約し、

2 ASAFワーキング・パーティーは、香港(リーダー)、日本、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、イラク、韓国、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、シンガポールより構成。

AOSSG 代表者へのインプットを行った。ASBJ も、概念フレームワーク WG と取得及び報告企業問題 WG のリーダーとして、電子メールや電話会議を通じて意見集約を行った。

#### 4. AOSSG 中間会議の開催

2014 年 6 月 6 日に IASB 代表者による証券監督当局等向けのセミナーが東京で開催されたことに併せ、6 月 5 日に IASB 代表者と AOSSG 代表者との間で会議が行われた。同会議では、AOSSG メンバー（6 か国<sup>4</sup>）から約 15 名程度が参加し、基準の解釈や適用に関する論点のほか、IFRS 第 3 号の基準適用後レビュー、農業、リース、概念フレームワーク、金融商品、収益認識等について議論が行われた。IASB からは、Philippe Danjou 理事、Sue Lloyd 理事、Henry Rees テクニカル・ディレクター、Michael Stewart テクニカル・ディレクターが出席したほか、ASBJ からは、新井副委員長、関口常勤委員、北村専門研究員、太田専門研究員が参加した。

---

3 概念フレームワーク WG、財務諸表表示 WG、保険契約 WG、金融商品 WG、取得及び報告企業問題 WG がそれぞれの WG メンバーの意見集約を行った。

4 会議に参加した AOSSG メンバーは、香港（議長）、韓国（副議長）、日本、ニュージーランド、マレーシア、シンガポールの会計基準設定主体であった。